

## 2010年トルコにおける日本年【3つの柱】

### ①日本の魅力に親しんでもらう

私たちは、「日本年」の機会に、私たちが誇る様々な分野の日本の魅力や強み、そして、日本の伝統的な姿と今の姿の両方を紹介し、トルコの友人たちに、私たちの国に対する親しみや理解をより一層深めてもらいたいと考えます。

伝統芸能、芸術、音楽、環境・省エネ、テクノロジー、観光、武道、舞踊、映画、アニメ、ポップカルチャー、ファッション、スポーツ、日本食、平和構築、国際貢献、人づくりetc.

### ②友好の裾野を広げる

私たちは、「日本年」の機会に、大都市から「地方」へ、そして「青少年層」へと、空間と世代の両方で日本の友人を増やしていきます。そして、「私たちがまだ伝えたことのないニッポン」は何だろう、と考えながら、トルコに新しい友人を作っていきたいと考えます。

トルコは人口7,000万人の内、35歳以下が約60%を占める。アンカラとイスタンブールを除く100万人都市の数だけでも16都市。これまで日本と接点のない地域・人々も多数。

### ③交流を未来へ続けていく

私たちは、「日本年」の機会に、両国の誇るべき友好の歴史の蓄積を、もう一度確かめ合いたいと思います。その上で、日本側が一方的に情報を発信するのではなく、また、一度限りの交流で終わらせるのではなく、トルコの友人たちと一緒に、未来にずっと続いていくような交流を目指していきたいと考えます。

主な両国友好のエピソードとして、エルトゥールル号事件、イラン・イラク戦争時の邦人救出劇など。交流の象徴として、カマン遺跡発掘、土日基金文化センターなど。